

一 【出典】『モノ申す人類学』長谷川眞理子

問一 X 持って出かける Y 持たずに出かける

問二 情報がたくさんあると、二者択一の判断がしにくく  
なってしまうから。

問三 1 カ 2 ウ 3 ア 4 キ 5 エ

問四 1 腹を割る (腹の内を明かす、腹の内を見せる、  
腹藏ない)

2 腹を切る (詰め腹を切る/切らされる)

3 背に腹は代えられない

4 腹を探る

5 腹に収める (納める)

問五 ア・エ・オ

ニ 1 ク 2 エ 3 オ 4 カ

5 ウ 6 コ 7 ア

三 1 よだつ 2 はやる 3 きたす

4 くじく 5 よぎる

四 1 ア 2 イ 3 イ

五 カ・キ・コ

六 1 初心 ↓ 所信

2 不足 ↓ 不測

3 異状 ↓ 異常

七 1 エ 2 ア 3 キ 4 ク

5 カ 6 ウ 7 イ 8 オ

八 A 区 B 分 C 化 D 収 E 支

F 内 G 心 H 水 I 牛

【問題解説】

一

問一

問題文に二つずつある  X  Y に入る適当  
な言葉を答えなさい。

【まずは一文拡大から】

傍線部や空欄補充の問題では、まずはそれらをふくむ一  
文全体をとらえ、最初のヒントを見つけておきましょう。

降水確率がどうであれ、傘を  X  Y か  
 Y か、行動の選択肢は二つしかない。

一文に拡大できたら、「指示語」「接続語」と、空欄に直  
接つながっている語句をチェックします。それらの情報を  
もとにすると、次のような情報が得られます。

- ① X、Y に入るのは「行動の選択肢」である。
- ② 二つの行動には、降水確率は関係ない。
- ③ 「傘を」どうするのか、という内容で行動を書く。

さらに次の文

傘を三〇パーセントだけ持っていくことはできない  
のである。

40 分 / 80 点

となれば、傘を「持っていく」「持って行かない」という方  
向で書けばよいのだとわかります。

昨年同様、普通に読んでいけばすつと答えが出たことと  
思います。設問や空欄前後の内容をしっかりと活用して考え  
ることを意識しておきましょう。

問二

線部「人は、商品に関するうれしいということもな  
い」とありますが、それはなぜですか。理由を答えなさい。

【まずは一文全体に拡大】

また、人は、商品に関する情報がうんとたくさんあ  
ればあるほどうれしいということもない。

情報が多いことは一見好ましいように見えますが、多け  
れば多いほどうれしいかというところでもない、というの  
が筆者の主張です。したがって、ターゲットになるのは「情  
報が多いことのマイナス点」であるということになります。

傍線部直後に「買う/買わない」「投票する」「投票しな  
い」の話があり、それに続く段落で

こうして見てくると、人間は、情報がたくさんあると  
二者択一の判断をしにくくなる。そして、そんな状況に  
陥るのは不快で、簡単に二者択一で判断したいという欲  
求がある、と言えそうだ。

というまとめが行われています。この部分に「二者択一の  
判断をしにくくなる」というマイナスの表現がふくまれて  
いますね。この内容を使って解答を作っていきます。

☆記述メモ

【文末】から。

【直結】二者択一の判断をしにくい  
情報がたくさんある

「不快」という表現については、傍線部中の「うれしいと  
いうこともない」に近い表現であることから、理由の説明  
には必要ないでしょう。

今回は解答らんが二行で字数指定がありません。一気に  
書いてしまえる分量ではありますが、できれば解答らん  
文を書き始める前に「入れるべき要素の抜けはないか」「最  
後ほどの表現で終わるのか(に着地点)」を見通してから書  
くようにしましょう。【直結】+【文末】の形、すなわち「二  
者択一の判断をしにくくなってしまふから。」だけでも、  
(字数も説明も不足はしていますが)設問で聞かれたこと  
に対する最低限の応答にはなっていることを意識すると  
よいでしょう。

問三

~~~~線部 a「カテゴリー」とありますが、これは「範囲」という意味で、「リー」で終わる外来語です。「リー」で終わる次の1〜5の外来語の意味を漢字の熟語で表現するかどうか。後のア〜キから最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

- 1 ストーリー      2 エントリー      3 リカバリー
- 4 セオリー      5 ミステリー
- ア 回復      イ 決定      ウ 参加登録      エ 神秘
- オ 出入口      カ 物語      キ 理論

外来語の問題です。今回は、「リー」で終わるシリーズです。特定の形で始まったり終わったりする外来語は、将来みなさんが外国語を学習する際に「接頭辞」「接尾辞」などの意識を持つことにつながる場合があります。語句の学習はどうしても膨大な量のものをひたすら頭に詰め込むという形になりがちなので、「意味の似ているグループ」「形の似ているグループ」などでまとめて覚えておくことを意識しておきましょう。

それぞれの外来語を使って例文を作っておきましょう。すべて、解答となる熟語と入れ替えることができます。

- 1 ぼくはストーリー（物語）性のある文章が好きだ。
- 2 兄はマラソン大会にエントリー（参加登録）した。
- 3 パソコンからデータをリカバリー（回復）する。
- 4 ここはセオリー（理論）通り送りバントをしておこう。
- 5 宇宙のミステリー（神秘）にせまるテレビ番組を観る。

問四

~~~~線部 b「腹をくくりたくなる」とありますが、次の1〜5の意味になる言葉を「腹」を用いて答えなさい。

- 1 相手にかくさずに本心を打ち明けることのとたとえ。
- 2 失敗や不始末などの責任を取って辞任することのとたとえ。
- 3 大事のためには、小さな犠牲を払うのもやむを得ないというたとえ。
- 4 他人の心中をそれとなしにうかがうことのとたとえ。
- 5 見たことや聞いたことなどを自分だけの秘密にしておくことのとたとえ。

「腹」に関連する表現を問う問題です。やはり、このように同じ特徴を持つものをまとめて覚えることが対策として有効でしょう。

- 1 腹を割る
- 「今日はおたがい腹を割って話そうじゃないか」などのように使われます。「腹の内を見せる（明かす）」でもよいと思われれます。また、少し難しい表現ですが「腹蔵（ふくぞう）

う）ない」でも同じ意味になります。

2 腹を切る

「この計画がうまく行かなければ私が腹を切ろう」などのように使われます。似たような表現で「詰腹（つめばら）を切る／切られる」というものもありますが、こちらには「強制されて」というニュアンスが加わるため、やや微妙な解答になるかもしれません。

3 背に腹は代えられない

「背に腹は代えられないから、ここはタクシーに乗ろう」などのように使われます。漢字で表記した場合、「変えられない」としなないように注意が必要です。

4 腹を探る

「私が彼の腹を探ってみよう」などのように使われます。他人から本心をそれとなく聞き出そうとされる場合には「痛くもない腹を探られる」という表現になります。

5 腹に収める（納める）

「このことは私の腹に収めておくから、他言しないように」などのように使われます。「収」「納」どちらも辞書に収録されているため、どちらでもよいものとしていきます。

問五

~~~~線部 c「専横」の「横」と同じ意味で「横」が用いられている言葉を、次のア〜カからすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 横行      イ 横断      ウ 横転
- エ 横暴      オ 横領      カ 縦横

横という漢字には「縦の方向に直交する向き」「そば」のほかに「正しくない、道理に合わない」という意味があります。

それぞれ、例文を作ってみましょう。

- ア 世の中で不正が横行する。
- イ 手を挙げて道路を横断する。
- ウ 事故で車が横転する。
- エ 社長の横暴に社員が反旗をひるがえす。
- オ 会社のお金を横領する。
- カ 彼はひとりで縦横に活躍した。

選択肢に出てきていない中で「正しくない、道理に合わない」という意味で「横」が使われているものには、以下のようなものがあります。

- ・横着（おうちゃく）
- ・横車（よこぐるま） ↓横車をおす

二 次の1〜7は、動物を季語としてふくむ俳句を春から冬、新年の順に並べたものです。それぞれの□に当てはまる動物を後のア〜コから選び、記号で答えなさい。ただし、同じものはくり返して使えません。

俳句の問題です。少ない言葉数という制約の中で、読者の想像をうながすような仕掛けがいろいろ施されています。字余り・字足らずに注意しつつ、「音数(文字数)」と「ストーリー」をたよりに答えを確定させましょう。

俳句に関しては著作権の関係上全文を載せることはできません。どのようにして答えを導くか、という順序のみを掲載します。

1 「直線・街／来る十三字」↓燕

「直線」は電線に燕が止まっている様子を表しているのでしよう。燕は春の半ばごろに南方からやってきて、家の軒先などに巣をつくりまします。

2 「浮いてから泳ぐ十四字」↓亀の子

浮く、泳ぐ、という表現から水に関係のある生き物かな、という連想はできるはずですが、これと字数を合わせると「亀の子」が残るでしょう。ちゃんと水面に浮いてからでなければ泳げない、ということと「(亀の)子」という表現も合っています。

3 「線香のけむり十三字」↓水母

くらはげは、体の形を変えながら泳ぎます。そのふわふわただよう様子(特に体を広げた時の形)が「線香のけむりのよう」とたとえられています。

4 「ぴいと鳴く十二字」↓鹿

二字という条件から「牛」「馬」「鹿」が考えられますが、そのうち「ぴい」という鳴き声に特徴のあるもの、という条件から鹿が入ります。秋の交尾の時期、オスの鹿がメスの鹿を恋うてあげるもの悲しい声から秋の季節語になっています。

5 「肥ゆる十二字」↓馬

「秋」「肥ゆる」「二字」とくれば、すんなり馬が選べるでしょう。「天高く馬肥ゆる秋」はすぐに思い出してください言葉です。

6 「夜十四字」↓むささび

大問二の中では一番ヒントが少ない句だったかもしれませんが、交尾期が冬で、猫のような声で鳴くことから冬の季語となっているようですが、これを知識として覚えていない人は少ないでしょう。夜行性であること、木と木の間に飛ぶことなどと字数が決め手になります。

7 「木屑・髭十四字」↓伊勢海老

車海老や伊勢海老は、少し湿らせたおがくず(のこぎりなどで切った際に出る木屑)に入れておくと生きたまま運ぶことができます。ゆでると真っ赤になることから縁起物としておせち料理などに入ることが多く、新年の季語になっています。

三

次の1〜5の□に入る動作を表す言葉を、ひらがな三字でそれぞれ答えなさい。

1 暗がりから聞こえるうなり声に、身の毛も□思いがした。

2 血気に□若者たちが、感情にまかせて起こした事件だ。

3 ゲームをしすぎると、勉強に支障を□だろう。

4 ヒーローとして大切なのは、弱きを助け強きを□ことだ。

5 もうやめようとの思いが脳裏を□たび、打ち消してきた。

1 身の毛もよだつ

「よだつ」は「いよだつ(弥立つ)」が音変化したものです。「弥」は「いや」とも読み、「ますます」の意味です。恐怖で毛が逆立つような思いを表現します。

2 血気にはやる

「はやる」は漢字で「逸る」と書き、勢いにまかせて向こう見ずな行動を取ることを指す表現です。「血気さかん(盛ん)」を先に思い出してしまうと出てきにくいかもしれませんが。

3 支障をきたす

「きたす」は漢字で「来す」と書き、何らかの結果を生じさせる、という意味です。

4 弱きを助け強きをくじく

「くじく」は漢字で「挫く」と書き、相手を弱らせる、という意味です。仁義を大切にし、困っている人を助けようとする性質を表す「任侠(にんきょう)」に関連してよく出てくる言葉です。

5 脳裏をよぎる

「よぎる」は漢字で「過る」と書き、前を通る、横切る、という意味です。「脳裏をよぎる」で「ふと頭に浮かぶ」という意味になります。

四 次の1〜3の各組にある□には、ひらがなが一つ入ります。他と違うひらがなが入るものを、それぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- 1 ア い□わる(意地悪) イ そこ□から(底力)  
ウ ち□む(縮む) エ はな□(鼻血)  
オ ま□か(間近)
- 2 ア うわ□み(上積み) イ き□く(築く)  
ウ て□くり(手作り) エ ふみ□き(文月)  
オ りくつ□き(陸続き)
- 3 ア うすご□り(薄氷) イ お□さま(王様)  
ウ すど□り(素通り) エ と□あさ(遠浅)  
オ みやこお□じ(都大路)

かなづかいの問題です。比較的低学年で習うものが多いため、忘れてしまっている人が多いかもしれません。基本的なルールは覚えておきましょう。

1・2 「ぢ・づ」と「じ・ず」

「ぢ・づ」は原則として「じ・ず」に直しますが、二つの言葉がつながってできた言葉にふくまれるものや、同じ音が続くことによって生じるものについては「ぢ・づ」で表記します。ただし、「せかいじゅう(世界中)」などのように二つの言葉がつながってできているという感覚がうすくなっているものについてはどちらで表記してもよいという例外の規定もあり、ある程度は覚えるしかないという面もあります。また、細かく言うと言読みの「呉音」「漢音」がかかわってきますが、ここでは触れません。

- 1 ア いじわる(意地+悪) イ そこぢから(底+力)  
ウ ぢぢむ(「ぢ」の連続) エ はなぢ(鼻+血)  
オ まぢか(間+近)
- 2 ア うわづみ(上+積み) イ きづく(築くで一語)  
ウ てづくり(手+作り) エ ふみづき(文+月)  
オ りくつづき(「つ」の連続)

3 「う」と「お」

「お」列の音を伸ばす時には、原則として「う」を使います。ただし、以下に示すようなものは例外です。  
「とおく」「おおきい」「こおり」「おおかみ」「ほのお」「お」「おおせ(仰せ)」「とおる」「ほおずき(他にもあり)」これらの例外は、歴史的仮名遣いで「お」列の音に「ほや」を「を」を続けて書いていたものです。

- 3 ア うすごおり(薄氷) イ おうさま(王様)  
ウ すどおり(素通り) エ とおあさ(遠浅)  
オ みやこおおじ(都大路)

五 二字の熟語の中には、「消火」(火を消す)、「発熱」(熱を発する)のような組み立てのものがありません。「消火」「発熱」と同じ組み立ての熟語を次のア〜コからすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 運送 イ 恩師 ウ 解放 エ 学者 オ 兄弟  
カ 集金 キ 洗顔 ク 全力 ケ 走行 コ 読書

熟語の組み立てには、以下のようなものがあります。

- 1 上の字と下の字が似た意味
- 2 上の字と下の字が対の意味
- 3 上の字が主語、下の字が述語(自営、私立など)
- 4 上の字が下の字を修飾
- 5 上の字が動作、下の字がその対象
- 6 上の字が「不・無・非・未」で下の字を否定
- 7 下の字が「的・性・化」
- 8 長い単語の省略(国連、高校、特急など)

今回の「消火」「発熱」は5ですね。これらの熟語は下から上に返って読むことができます。

組み立てを見分けるだけでなく、熟語の意味を理解して覚える際には、「一字ずつに分ける」「訓読みするか、別の熟語を作る」という二つの作業が重要になります。

|     |     |   |       |    |
|-----|-----|---|-------|----|
| ア 運 | はこぶ | 送 | おくる   | ↓1 |
| イ 恩 | 恩義  | 師 | 師匠、教師 | ↓4 |
| ウ 解 | 解く  | 放 | 放つ    | ↓1 |
| エ 学 | 学究  | 者 | 者     | ↓4 |
| オ 兄 | あに  | 弟 | おとうと  | ↓2 |
| カ 集 | 集める | 金 | を     | ↓5 |
| キ 洗 | 洗う  | 顔 | を     | ↓5 |
| ク 全 | 全ての | 力 | ↓4    |    |
| ケ 走 | 走る  | 行 | 行く    | ↓1 |
| コ 読 | 読む  | 書 | を     | ↓5 |

以上から、カ・キ・コが同じ組み立てとわかります。

六

次の1〜3の文には、パソコンで間違っって変換された言葉が一つずつふくまれています。間違っっている言葉をさがし、正しく書き改めて答えなさい。

1 新たに指名された総理大臣の初心表明演説が支持できるものか、クラスメイトと授業中に議論した。

「初心」ははじめのころの気持ち  
「所信」自分がこうだ、と信じる内容

2 不足の事態に備えて多めに人手を確保していたことが、災害を乗り切ることのできた理由だ。

不足 足りないこと  
不測 予測ができないこと

「不測の事態」で思ってもみなかった(悪い)事態、という意味を表します。関連して「想定外」という言葉も覚えておきましょう。

3 初夏の低温や初秋の害虫の異状な発生が要因となって、昨年は西日本で米の生産量が落ち込んだ。

異状 普段と異なる状態  
異常 普段と異なる

似たような意味ですが、「異状」の方は名詞としてしか使えない(異状な、とは言えない)ものの、「異常」は「異常な」のように様子を表す形でも使えるし、「異常はない」のように名詞としても使えるという違いがあります。ここは「な」につながっていることから異状は使えず、異常が正しいということになるでしょう。

七 次の1〜8の言葉のたとえとして用いることができる言葉を後のア〜クから選び、記号で答えなさい。ただし、同じものはくり返して使えません。

- 1 お世辞      2 群衆      3 静けさ      4 疲れ
- 5 突然      6 変化      7 理解      8 労働

ア 芋を洗うよう      イ 手に取るよう

ウ 猫の目のよう      エ 歯が浮くよう

オ 馬車馬のよう      カ 降ってわいたよう

キ 水を打ったよう      ク 綿のよう

ア 「芋を洗うような混雑」という形で、人が大勢集まって混雑している様子を表します。夏休みのプールなどの様子を表現する際などによく使われます。

イ 「手に取るようにわかる」という形で、物事や心理などがはっきりわかる様子を表します。

ウ 「猫の目のように変わる」という形で、状況に合わせてどんどん変化する様子を表します。猫の目は明るさによって様々に変化し、わずかな光でもものが見えるようになっていきます。

エ 「歯が浮くようなお世辞」という形で、「本心から出たものではなくいかにも空々しい見えすいたお世辞」という意味になります。

オ 「馬車馬のように働く」という形で、「わき目もふらず必死で働く」という意味の表現です。馬車の馬が前方しか見えないように目の横に覆いをつけられていることからきている表現です。

カ 「降ってわいたような話」という形で、「思いがけず生じた出来事」を表す表現です。

キ 「水を打ったように静まる」という形で、シーンと静まり返っている様子を表す表現です。水をまくことによって砂ぼこりなどが立たなくなることからきている表現です。

ク 「綿のように疲れる」という形で、ひどく疲れた様子を表す表現です。綿がやわらかいことから、自分で立っていらなくなるほどくたくたになった様子を指すようになったものと言われています。

八 次の(1)〜(3)の漢字しりとりを、「条件」に合わせて完成させなさい。

〔条件1〕 同じ漢字を二回以上用いてはいけません。

〔条件2〕 A〜Iの字はすべて四画です。

〔条件3〕 A〜Iのそれぞれの字は二回とも同じ読み方で

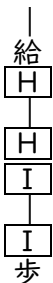
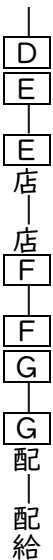
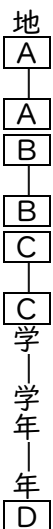
〔条件4〕 A〜Iの読み方は、次から選びなさい。同じものはくり返して使えません。

〔カ・ギユウ・ク・シ・シユウ・シン・スイ・ナイ・ブン〕

〔条件5〕 示されている字の読み方は、一回目と二回目と

が同じ場合も異なっている場合があります。

(学・年・店・配・給)



〔条件2〕の使いどころが難しいかもしれません。とにかく、片方が見えている部分を〔条件4〕〔条件5〕などから追い込んでいくことで先が見えてくるでしょう。例年のものに比べると解きやすかったのではないのでしょうか。